

「市役所試験を攻略！」

地方公共団体が行う採用試験のうち、大卒程度の学力が必要な試験のことを総じて「地方上級試験（地上）」と呼んでいる。本日確認する市役所の試験も、本来的には「地上」といえるが、地方上級試験は一般的に、6月の第4日曜日に実施される県庁などの広域行政の試験と政令指定都市の試験のことを指している。そのため、政令指定都市以外の試験は地上とは呼ばずに、単に市役所試験と呼ばれている。ここで取り上げる「市役所試験」も、政令指定都市（地上）に関する情報は含まれていない。

日程について

市役所試験は、年度により実施日程が変わることがあります。来年度については、必ず受験案内等で確認して下さい。

ほとんどの市役所では、1次試験問題を独自で作成することではなく、特定の業者から購入し、成績処理を委託している。そのため、問題の傾向などは「特注」しない限り、地域差がないといってよい。また、日程についても、コスト面などから複数の自治体で問題を「共同購入」しているような状況であり、そのため、同一日程で実施されることが多くなる。これはコスト面だけでなく、安定した人材の確保という面でも利があるといえる。近隣の市役所が同一日程で実施することによって、いわゆる「青田刈り」のような過当競争が起こりにくく、かつ、重複合格者が減るため、辞退者（率）も少なくなるからである。

全国の市役所をその1次試験日で分類すると、概ね3つの日程に分けられる（A日程、B日程、C日程と呼ばれる）が、近年はこれ以外の日程で実施する試験も存在し、多様化しつつある。便宜上、日程をA～Eに分類して表記していく。

A日程（6月第4日曜日）

⇒市役所の中でも規模の大きい市、特に県庁所在市などが実施する日程。この日は、県庁や政令指定都市（＝地方上級）試験が実施されており、その問題の多くが市役所試験と共通している。

B日程（7月第4日曜日）

⇒一部の市役所が実施する日程。実施する自治体が少ないことと、日程的に他の公務員試験と重ならないため、多くの受験者が併願して、倍率が高くなる傾向がある。全国的にみてもこの日程で実施する自治体は少ない。関東では、神奈川県と千葉県、および群馬県で実施している市が多い。

C日程（9月第3日曜日）

⇒最も多くの市役所がこの日程で試験を実施する。地域によっては複数の市が共通の書式で募集要項など作成し、「合同試験」「共同試験」あるいは「統一試験」という呼び名を使い実施する。関東では、埼玉県や茨城県のほぼ全ての市役所と東京都の大部分の市がこの日程で実施している。全国的にみてもこの日程で実施する自治体は非常に多い。また、この日程で試験を行う自治体は専門択一試験を実施しないところが多い。

D日程（10月第3日曜日）

⇒全国的に見てもこの日程で実施する市は非常に少ない。この日は多くの県警で高卒程度の警察官採用試験が実施されており、問題を共有している可能性がある。そのため、専門択一試験は実施されないことがほとんどである。関東では埼玉県（蕨市）と東京都（東大和市）などで実施が確認されている。

E日程（その他の独自日程）

⇒近年では実施日程を独自で設定する市役所も見られるようになった。日程としては様々だが、パターンとしては2通りある。

- ①「独自問題」：独自で問題を作成する場合や、SPIのような適性を図る試験を利用する場合、あるいは、ES（エントリーシート）のような作文のみの試験にすることがある。
- ②「隠れ A～C 日程」：1 次試験を適性試験のような簡易な試験として実施し、2 次試験以降で初めて択一試験を上記の A～C 日程で実施する。この場合は、実質的には A～C 日程試験であり、同一日程である他の市より先に優秀な受験生を囲い込むための日程上の工夫だといえる。

択一試験出題科目数

市役所では、択一試験において選択解答制を導入している試験は稀で、基本的には全問必須解答であると考えてよい。また、出題される科目の種類については概ね確定しており、特に専門択一試験を実施する市役所においては日程に関係なく、法律や経済学、政治学などの主要な科目に加えて、「行政学」「刑法」「労働法」「社会政策」「国際関係」の出題がある。ただし、科目別出題数については固定されているわけではなく、年度により多少バラつきがある。

以下の表は、過去に受験した受講生からの情報を元にした、各（A, B, C）日程における出題数の目安であり、年度によっては多少出題数が前後すると考えていただきたい。

A 日程科目別出題（目安）

＜教養科目＞			全 40 問必答		
社会	政治・経済	5	自然	生物	2
	社会	2		地学	1
人文	世界史	1	文章理解(現)		3
	日本史	3	文章理解(古)		1
	地理	3	文章理解(英)		3
自然	数学	1	数処	判断推理	7
	物理	1		数の推理	5
	化学	1		資料解釈	1

＜専門科目＞		全 40 問必答	
政治学	2	労働法	2
行政学	2	経済原論	9
憲法	4	財政学	4
行政法	5	経済政策	1
民法	4	社会政策	2
刑法	2	国際関係	3

B 日程科目別出題（目安）

＜教養科目＞			全 40 問必答		
社会	政治・経済	6	自然	生物	2
	社会	1		地学	1
人文	世界史	2	文章理解(現)		2
	日本史	3	文章理解(古)		1
	地理	2	文章理解(英)		4
自然	数学	1	数処	判断推理	6
	物理	1		数の推理	6
	化学	1		資料解釈	1

＜専門科目＞		全 40 問必答	
政治学	2	労働法	2
行政学	2	経済原論	11
憲法	4	財政学	3
行政法	5	経済政策	1
民法	4	社会政策	3
刑法	2	国際関係	2

C日程科目別出題（目安）

＜教養科目＞		全 40 問必答			
社会	政治・経済	5	自然	生物	2
	社会	2		地学	1
人文	世界史	2	文章理解(現)		3
	日本史	2	文章理解(古)		1
	地理・思想	3	文章理解(英)		3
自然	数学	1	数 処	判断推理	7
	物理	1		数的推理	5
	化学	1		資料解釈	1

＜専門科目＞		全 40 問必答	
政治学	2	労働法	2
行政学	2	経済原論	11
憲法	4	財政学	3
行政法	5	社会政策	3
民法	4	国際関係	2
刑法	2		

試験時間について

市役所の場合、40 問必須解答の試験では、教養・専門択一ともに 120 分の試験時間が設定される。仮に、A～C 日程であっても、試験時間が 2 時間となっていない[例：逗子市(C)60 分]場合は、上記と異なる問題配分になっている可能性があるということになる。

適性検査について

地方公務員試験では、択一試験や論文試験とは別に「適性検査」が実施されることがあるが、多くの場合はいわゆる性格検査であり、「職場適応性検査」という名で実施される。この場合、特に対策をする必要はないが、市役所の中には、旧国家Ⅲ種や地方初級試験で実施されている「適性試験」のようなものを実施する場合がある。上記の適応性検査と区別して、「事務適性検査」と呼ばれる。適性検査が「事務適性」である場合は、問題慣れのために 2 週間程度事前の対策（練習）をしておく方が無難である。

「事務適性検査」は、大卒程度の試験で実施される「専門択一試験」の代替として使われることが多く、専門択一が出題される市役所で実施されることは稀である。

市役所の受験案内に単に「適性検査」とだけ書かれている場合は「職場適応性」なのか「事務適性」なのかを確認する必要があるが、試験時間を確認することでどちらなのかを判断できる。

「事務適性検査」はスピードと正確性を図る試験なので、試験時間は短く、10 分～15 分で終了する。これに対して「職場適応性検査」の場合、30 分以上（場合によっては複数行うため 2 時間近く）はかかる。

職場適応性検査…性格検査の種類として代表的なのは、クレペリン検査、Y・G 検査、MMPI 等である。

※特に対策の必要はありません

- クレペリン（35 分）：作業結果をもとに情緒の安定性や、仕事にかかる時の態度、適応力などを判断する検査。

作業内容は継続的な数字の足し算。(並んでいる 2 つの数字を合計し、1 の位をマークシートに記入する)

例) 1 段目 8637291647927483672391375938627194857376254839 …

2 段目 1647927483672391375938623847562134864955938261 …

号令にあわせて 1 分ごとに行を変え、各行の左端から計算していくという作業を前半 15 分(15 行)、休憩を 5 分間挟んで後半 15 分(15 行)。この作業の終了後、各行の最後に計算された数字を前半、後半それぞれ各段の作業個数を算出し、曲線を得る。この曲線を作業曲線とよび、この曲線の型などから様々な分析を行う。

- Y・G (20～30 分)：質問紙によるもので、12 の性格因子を調べるための 120 個の質問から成り立っている。
各質問には「はい」「いいえ」「どちらでもない」で答える。

性格因子は D (抑うつ性)、C (回帰的傾向)、I (劣等感)、N (神経質)、O (客観性の欠如)、Co (協調性のないこと)、Ag (愛想の悪いこと)、G (一般的活動性)、R (のんきさ)、T (思考的外向)、A (支配性)、S (社会的外向) があり、性格類型は A (平均型)、B (不安定積極型)、C (安定消極型)、D (安定積極型)、E (不安定消極型) の 5 つのタイプに大きく分けられる。性格類型はこの 5 つのタイプそれぞれに、典型、準型、混合型があり性格判定は 15 通りある。

- MMPI (40～60 分)：上記の Y・G 検査と同様に質問紙によるもので、550 個の質問から成り立っている。
各質問には「あてはまる」「あてはまらない」「どちらでもない」で答える。

事務適性検査…スピードと正確性を図る試験、マークシート方式。一般的には 100 問を 10 分で解く形式。

計算・分類・照合・置換・図形の 5 種類の出題パターンから 3 種類のパターン (検査Ⅰ、検査Ⅱ、検査Ⅲ) を使用して試験が行われる。1 つのパターンで 1 つの検査とすることもあれば、2 つ以上のパターンを複合 (例：計算してその答を分類) して 1 つの検査とする場合もある。出題形式は **スパイラル方式という循環配列** になっており、3 つのパターンが繰り返し出題される形式になっている。

スピード試験なので、基本的には全問を解くことは不可な時間配分になっているが、正確性も同時に図るため、問題番号順に解かなければならない。なぜなら、**飛ばした問題については誤答とみなされる** からである。採点は減点法で行われ、**正答数－誤答数＝得点** となっている。以下の例のように、スピードのみを重視した場合は点数が低くなる場合が出てくる。

- 例) ① No1～No65 までマーク そのうち No6, 7, 15, 33, 48, の 5 問が不正解
⇒正答 (65－5)－誤答 (5)＝55 点
- ② No6～No70 までマーク そのうち No6, 7, 15, 33, 48, の 5 問が不正解&No1～5 の 5 問飛ばし (誤答)
⇒正答 (70－10)－誤答 (5＋5)＝50 点

スパイラル方式の例)

検査Ⅰ No.1～No.5...計算 ⇒検査Ⅱ No.6～No.15...照合 ⇒検査Ⅲ No.16～No.25...図形 ⇒
検査Ⅰ No.26～No.30...計算 ⇒検査Ⅱ No.31～No.40...照合 ⇒検査Ⅲ No.41～No.50...図形 ⇒
検査Ⅰ No.51～No.55...計算 ⇒検査Ⅱ No.56～No.65...照合 ⇒検査Ⅲ No.66～No.75...図形 ⇒
検査Ⅰ No.76～No.80...計算 ⇒検査Ⅱ No.81～No.90...照合 ⇒検査Ⅲ No.91～No.100...図形

検査Ⅰ：計算出題例

次の () の数字について上下の数を足して出た結果のうち、最大値と最小値の和を求める。その数値の一の位と十の位の数の差 (絶対値) を求めよ。ただし、答えは 1～5 以外にはならない。

No.1 $\begin{pmatrix} 10 & 19 & 3 \\ 8 & -5 & 4 \end{pmatrix}$ No.2 $\begin{pmatrix} 13 & 3 & 15 \\ 12 & 5 & -9 \end{pmatrix}$ No.3

答え：No.1 最大 18＋最小 7＝25 ⇒2 と 5 の差＝3 ∴肢 3
No.2 最大 25＋最小 6＝31 ⇒3 と 1 の差＝2 ∴肢 2

検査Ⅱ：照合出題例

次の文字の羅列とまったく同じものが、手引きの1～5のどの欄にあるのかを答えよ。

1	わこれいな これへんむ のえらひす	みくらせは ぬさらふる せめいけへ
2	へんむねけ いおしほな ねせみりふ	ひにすさま あなちとら よれいきひ
3	にえとひる めくやにそ わしけほて	らひかうせ せをよころ へゆらます
4	ひさいおめ やをてきぬ よふやろき	りみあかせ あるろんそ いにしそか
5	ぬもをると あつとちか みやへむか	にかまろい ゆにさろへ こらけへわ

No.6 あなちとら ∴肢2

No.7 みくらせは ∴肢1

No.8 へゆらます ∴肢3

・

・

・

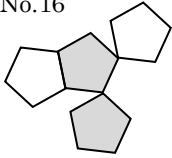
・

・

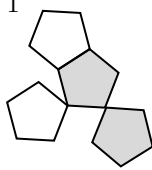
検査Ⅲ：図形出題例

左の図形と同じもので、向きだけ変えた図形は1～5のうちどれか。

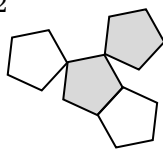
No.16



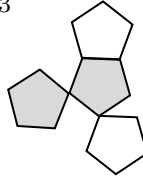
1



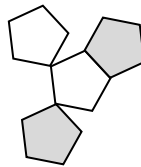
2



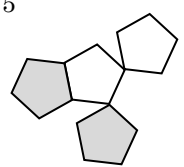
3



4



5



No.17

No.18

・

・

・

∴肢2